

★ サヤムシガ類(豆類) 情報

発生量が平年比多い状況です
今後の発生動向に注意してください

7月中旬に丹後、中丹、南丹地域の黒大豆ほ場で実施したサヤムシガ類の見取り調査では、寄生虫数は1.9頭/25株(平年値:0.8頭/25株)、寄生株率は6.5%(同:3.3%)、被害葉数8.8枚/25株(同:3.1枚/25株)、被害株率20.5%(同:9.3%)、発生確認ほ場率75.0%(同:83.8%)で、**平年比多い発生**(表1)でした。

大阪管区气象台7月20日発表の近畿地方の1か月予報では、「**向こう1か月の気温は平年比高い**」と予想されており、**今後もサヤムシガ類の発生を助長しやすい状況**です。

今後、豆類は、開花期、着莢期を迎えますが、幼虫が莢内に食入すると防除効果が劣りますので、幼虫ふ化時期～食入開始時期の防除が重要です(表2～4)。

表1 サヤムシガ類の見取り調査結果

年/項目	寄生虫数 (頭/25株)	寄生株率 (%)	被害葉数 (枚/25株)	被害株率 (%)	発生確認ほ場率 (%)
H29 (平年比)	1.9 (平年比多い)	6.5 (平年比やや多い)	8.8 (平年比多い)	20.5 (平年比多い)	75.0 (平年比やや少ない)
平年値	0.8	3.3	3.1	9.3	83.8
H28	1.4	5.5	3.4	10.5	100.0
H27	0.8	3.0	2.5	7.0	50.0
H26	0.8	2.5	2.3	7.0	75.0
H25	0.4	1.5	3.6	11.5	100.0
H24	2.1	8.0	7.3	19.5	87.5
H23	0.8	3.0	2.3	8.0	87.5
H22	0.8	3.0	3.5	11.0	87.5
H21	0.6	2.5	3.0	9.0	87.5
H20	0.5	2.0	2.1	5.5	62.5
H19	0.4	1.5	1.0	3.5	100.0

* H29年7月中旬調査、丹後、中丹、南丹地域黒大豆ほ場



写真1 黒ダイズにおけるサヤムシガ類の被害葉(綴り葉、左矢印)と幼虫の寄生(右矢印)

表2 「ダイズ」でサヤムシガ類に登録のある薬剤(平成29年7月27日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1B (3A)	スミチオン乳剤	20倍(3L/10a)	収穫21日前まで	4回以内	空中散布	4回以内	マメヒメサヤムシガで登録
		8倍(0.8L/10a)			無人ヘリ散布		ダイズサヤムシガで登録
		1000倍			散布		マメヒメサヤムシガで登録
	パーマチオン水和剤	1000倍	収穫21日前まで	3回以内	散布	MEP4回以内 フェンハレート3回以内	マメヒメサヤムシガで登録

表3 「エダマメ」でサヤムシガ類に登録のある薬剤(平成29年7月27日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1B	スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内	マメヒメサヤムシガで登録

表4 「アズキ」でサヤムシガ類に登録のある薬剤(平成29年7月27日現在の登録内容)

IRAC コード*	農薬名	希釈倍率・使用量	使用時期	使用回数	使用方法	総使用回数	備考
1B	スミチオン乳剤	1000倍	収穫21日前まで	4回以内	散布	4回以内	マメヒメサヤムシガで登録

*殺虫剤コード。殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができる。
同コード欄の()は、混合剤の異なる成分の記号を記載。